

バスターズの葉局さん、くすりの高いことと自分て發表した。掛売が多く、掛倒れも相当あるもので、その損害補填のため、に善良なる現金買いの華春に買付け、つぐなうていさような錯覚を起させる未明をとしていさ。

名の通ったくすりでも各葉局毎に、ちがいの。その開きもあることを吾々は知って、元価をきつてお売りなさいとは云わぬが、葉九層倍はひとかたあらず、掛倒れのフナウメに正直者を、はがぬよう、今までの罪七しにせい、安くしていたをき度い。

○異常進行害社

日本から来て、わざと金を貸す店を出して、相を商人には貸すが百姓では中々借りられない。リベットの約束をせよんか、たともいい、かゆい処を搔いてやらん、か、たとも誠しやかに云う人もある。たぶんハネリれた人のかゆぐちたろう、たも金を借りる時頭は三回位は手土産ぐらゐもって行くのはエチケツトだ相だが、農業方面をあと廻しにするので異常進行だ、なご悪口をいわれたのかも知れない。その店では支那人がホーナスを取ってやめると、後任も早速同期のホーナスを取っていいことになつて、お前たち字新聞が、いやがらせを言つて、お前たちの知ったことかと、しやア、して、お前たちの知れな、ホーナスの三度や四度、たか移民に直接つながらり、ある事業へ、パツと三四件貸した、と、人なものたろう、勿論リベットなしで。

○飛燕空手打ち

孫にせがまれて、Relampago とかいうのを、見にい、た、まことに、おそれ入った、空手もの、狐にハナをつままれた、よう、な、映画である、バナナ、一本、チモストラ食わせて、よかつた、一房買わせる、事もあるが、フイツパではそれができ、ない、シネマのクルツパではな、か、あんなのを、見せて、二十針と、る、の、は、良、心的、ではない、ね、シネマ、と、して、は、一、交、試、寫、して、こ、ん、な、の、は、上、映、ま、ま、と、こ、と、わ、る、位、の、度、胸、が、欲、い、もの、だ、と、人、な、もの、でも、売、り、さ、え、す、れ、ば、い、い、で、は、よ、ろ、しく、ない、念、の、ため、。

○沢田ヨドギミ

正岡子史女史六月一日大いにまくし立て、日本のワルク子をついた、まことに胸のすく思ひである、その中の一つ、黒人混血児は今以て盛んに生れる、生ん、厚、顔、な、母親、は、沢、田、み、き、さ、ん、の、狐、児、收、容、所、へ、も、つ、て、ゆ、く、み、き、さ、ん、は、愛、け、と、つ、て、育、て、る、こ、の、狐、児、院、財、団、法、人、の、創、め、に、は、こ、ま、つ、て、い、ない、み、き、さ、ん、の、創、め、を、以、て、現、在、で、は、日、本、の、社、会、情、勢、は、す、う、か、

Sapataria Pastos

入植祭におぼきになる
ウツがいろく、そらつていさす
紳士用・婦人用・子供用
学生用
新型・丈夫・安い



よいクツをお安く
というのが当店の
モットウでございます

ハチカワ靴店

バスターズ
りかわつて、い、る、の、か、ら、混、血、児、を、無、制、限、に、受、け、入、れ、る、の、は、と、ん、な、も、の、だ、ら、う、か、ト、ラ、ク、か、メ、シ、の、タ、ネ、か、と、こ、ろ、で、被、女、の、私、室、に、入、る、と、邪、屋、の、調、度、は、赤、い、色、白、絹、に、豊、艶、な、肉、体、を、つ、つ、み、肌、粧、し、た、あ、な、や、か、な、姿、か、つ、は、一、種、の、妖、気、が、立、ち、の、ほ、る、ヨ、ド、ギ、ミ、と、い、う、女、性、は、こ、ん、な、ク、イ、エ、の、ひ、と、で、あ、り、し、よ、な、こ、の、説、明、し、が、たい、モ、ヤ、モ、ヤ、と、し、た、困、窮、氣、が、今、の、日、本、を、蔽、い、つ、つ、ん、で、る、空、氣、だ、い、

沢田ヨドギミ、これをと、り、ま、く、の、救、の、牧、師、大、野、治、長、に、し、て、は、少、し、う、す、ま、な、い、感、じ、だ、つ、た、が、突、は、そ、の、ヨ、ド、ギ、ミ、の、史、の、諷、刺、ま、ん、ざ、ら、む、し、な、い、と、思、つ、た、

○混血児すて子問答
「自分て育てられなければ生まんが、いいでしよう」
「生んで、も、捨、て、れ、ば、い、い、で、し、よ、う、し、前、言、が、正、岡、女、史、あ、と、は、バ、ス、ト、ズ、の、有、名、人、さ、て、こ、の、勝負、ど、ち、う、へ、軍、配、を、あ、け、た、の、り、を、し、よ、う、か、

○バスターズの太陽族
石原慎太郎という若い作家が、アツと、いう、ま、じ、に、ジ、ー、ナ、リ、の、波、に、り、大、陽、族、と、い、う、新、ラ、ッ、サ、を、創、り、出、し、た、主、として、十、代、の、画、軌、道、者、少、年、の、一、団、が、昔、の、不、良、少、年、は、ち、が、つ、て、ト、ライ、で、性的、方面、に、新、分野、を、開、拓、し、た、と、ん、で、ある、相、だ、

御しらせ

一九五七年二月二十四日、当会定期総会に於て言明いたしました省会財産目録を左の如く発表いたします
一九五七年六月一日

バストス連合日本人会

財産目録 (バストス連日会)

一九五七年二月二十四日現在

1 木造平屋建二棟 空地四五m ロッチ一三三	一〇〇,〇〇〇.〇〇	評価額
2 録音機 老台 テーラ共	二〇,〇〇〇.〇〇	
3 材料見積額	一〇,〇〇〇.〇〇	
4 電気器具及道具類	四〇,〇〇〇.〇〇	漢玉用品
5 投光器 老台	二〇,〇〇〇.〇〇	
6 赤外線燈	一五,〇〇〇.〇〇	
7 電気治療機	一六,〇〇〇.〇〇	
8 同附属品	八五〇.〇〇	
9 消毒機	一〇,〇〇〇.〇〇	
10 酸素吸入器	一八,〇〇〇.〇〇	
11 エンセラテラ	三二,五〇〇.〇〇	
12 太陽燈	五,五〇〇.〇〇	
13 エックス光線	二五,〇〇〇.〇〇	評価額
14 レントゲン用手袋	一,九六〇.〇〇	
合計	一八〇,六六〇.〇〇	

御 社

金式百針也
故前南辺様一週忌御供養の印として御奇贈下さりました

角 南 才 さ よ 様

金式百針也

七母堂様の御供養として御奇贈下さりました

戸 田 興 三 郎 様

右三件有りがたく御礼申上ります
イクレイジヤ 建築委員会

会計 太郎 田 衛

ピンニヨ (ピンニヨン)

ピンニヨ売る雨のパラナを来し車 森啓

ピンニヨはパラナ松の実、房地もパラナ州が本場、ドロニコに付ったカミニオンがピンニヨを後、来たところをキヤッチしたもので、現地俳句のかわりかする。

曰く「あたしでできたようだが」「そうかお生みたけりや生むさ、中絶したけりや中絶するさ、費用はオメイもせよ」この会話はさる日曜夜のバウル放送天理教伝道所の太陽族に關する講演の一端を借用したものだ。同講演によると、戦後移民の中に、ニラした太陽族が、よく「まじっ」て渡伯しつゝあり、この都市にも地方にも漫漶してゐるといふ。

「生みたけりや生むさ」なごといふのは、バストスにはまだ發生しないようだが、狂った果實に見たようなニキビ覚が性臭を發散せせつゝある光景目にあまる風景は魚いでもない。自由と魚軌道をはきちがえないようには、子をもつ親は一だ人とマナコを光らせにやいけませんを。(系)

札幌だより

札幌市南十四、西六
真下 誠

拝啓 貴地滞在中は一方なりぬ御高配に預かりまして心から御礼申上ります。サントス港を三月廿四日出帆、四月五日パナマ運河通過、十三日桑港着、十六日出帆、十七日ロス着、廿日出帆、五月四日夜横濱港外着五日上陸、十日札幌に降りました。西の山々は未だ白雪を頂き、櫻は當に満開、日中は薄ら寒い位なるが、シ方からは風でもあると身にしみる寒さ。フラジルに降りたは一寸之はと思つ位で、議會も終りました。原水爆問題が各方面から論ぜられて居りますが、弱國の言ふことなど耳を傾ける時代ではありませぬ。國強からざるべからずの感を深くするものであります。帰日早々見る所、何かしら一部の人々はハイカラで賛沢に遣みずがはしないかの感を深めて居ります。神武景氣に對し、そんなことでは國が駄目を食國民諸君、一本痛椿を喰らわしたるが明治生れの頑固な私の頭には收支のバラツクを取れにくい暮し方の人も相當居ることを看破し、あお止んぬるかなの感を起すのであります。

(ニニ文字不明)何としてモフラジル現地のあり氣分が外務省や其他關係方面にピンと来てないらしい感が致します。結局は日本からの視察など全く無駄、フラジルから日本に未だ現状を説明する事がないでしよう。

ゴンサルベス、フラジル大使が六月一日より八日、北海道視察に来道します。移民問題が相変わらず報導機關を賑わして居つる事でしょう。送り出し機關と受け入れ機關はピンチヤとキヤッチャのようになり、緊密な連絡がなければ益々ふんわりするばかりでしょう。

五月三日札幌発、皆ごんによろしく、お各宛

正岡女史の御講演

浮田生

同じ講演にも責任のある言質と責任のない言質の放題との二つがある。勿論演者は聴衆より上位にあるんだから吾々の如き凡人がこれにふさわしくなく、又云う力もないが、只愛國心の上かお二ニの点を問いたたし、どうにかなりんものか御願ひして見たい様な気持ちで筆を執った。

昔から「つつけばホロが出る」との例え祖國日本も世界の強國を相手として戦つたのち相當の痛手を蒙り、つつけばそればかりなくホロが出る事でありました。そのホロを眞実なりに御講演して下さったらそれで良いと思ひますが、その事實を自分の想像と一寸と思つてフソを加へると針小棒大となり、丸が角になつて人の心を迷はす。内地の事情に就いて戦後一度も帰って見た事もない者が何生意氣を云うなど御しかりを受けろか知れんが、左の事がどうも私の心に落ちるから、論旨にふれたくないと思つたが、ついでに聞きなして見たい。

一、軍事基地が七百三あつて其の争いがたへまない。三府四十三県一県平均十五六の軍事基地がある事になる。我香川県には一つもない様だが、多い縣には四五つもある勘定になる。尚争ひ如きも砂川事件の外二三あつた様に思つたが、後の七百年の争ひ、どこで何時あつたか知る由もなかつた。

二、自営隊は米ソ戦が始まつたら、世界一流人物の作つた国際連合の規約だ、吾々の知る由もないが、他國の戦に自國の軍隊を最前線へやる政治家もなけれは他國の兵を自國の戦に使ふ大統領もある筈だが、又他の國々が黙する筈もない。たとえ戦國であつても現在國連加盟國の一員である日本に於てをや。

三、金の爲めに居て居る。或る一部に斯うした事は、この國にもあり、それを全体的に云はれたら、高岡女史が数字の事からフラジル女性をグバツたように、正岡女史は堂々と頭から日本女性をフバツた。その罪は大と云ふべきである。私は内地に居る親類縁者の事を思ひ、浮べシヤクにさわつてたまりない気持ちになつた。

四、本願寺の悪口を盛んに云つた。國を治める上に法律、教育、宗教は必

いよいよおさむくなりました。

フンワリと暖かい

加藤の精綿をおつかい下さい

フトンワタ 上等布圍いろく

又ふとん

さぶとん

御注文にも
応じます



古れた打ちなほし

冬はフンワリとした

暖いふとんに限ります

バストス市 フアルガス街

加藤製綿所

Fabrica de Algodão / Almofada de Pastos

然るもののであるが講演料の多少によつて正とも悪ともなる口職業者にはかわらない。仏教信者の多い中で餘りにもエチケットを失した感があつた。フラジル關係へ口漢料を賣歩き、帰つて日本事情をフラジルに賣り歩き、口先を一つで金儲けするその頭の良さには感心致しませんが、金金之れ以外の國家も國民もない様に責任のない講演をやられては、海外近所迷惑が大きい過ぎはせん、今日勿論、日本教育の必要性をとなえる今日、正岡女史先生の御講演の如き恐ろしい様も気がします。手も足ももぎ取られ泣くに泣かれん程タキンバサレた中から、東洋の盟主として世界にどんと手を振る平和日本の目ざましの揮ひかし、謝して其の隆登を御祈りする気持ちにな

文中の過言 拙筆に及ばず御許し下さい
六月二日 浮田現爾

編輯室より
前掲の一文は二三字のなき現文のみです
正岡女子さんの訪日土産話(五月

工業方面では石川島重工業のラジオ元素の放射による鉄板鉄骨塔の内部のきずをしらべるところがあり、送りほう方面ではガンの治療とか癌もわすか四十八時間の内にとれるという。また鶏に放射線力ルシウムを飲ませると、卵の各部の变化を計る実験とか色々あった。特に僕達農業者にとつて興味深く感じたことは、肥料にラジウム元素を入れてカイガイ計数管で計り成育状態や肥料の関係をはっきり知ることであった。

すなわち肥料が後時間にして茎や葉に吸収されるか、あるいはほどこされた肥料が百パーセントの吸収率か、又は何%か、たとえはリンサン肥料などは二〇%しか吸収されないというところが原子力利用によつて明らかになされたという。これなどは農業上に一大革命をもたらすものである。このようなものが一般的に普及すれば、農家にとつて大福音で十数年もかかり試験に試験を重ねて適正な肥料を造ることも苦の事となり、現在ではわづか数日数でやすくとも出来ると思う。

この大きな原子力(エネルギー)の平和利用は無限にあるだろう。わがアラジールでも新聞紙上によればすでに原子力の建設を急いでいるという。僕は一日も早く平和のための原子力利用を願つてやまない。

(評) 道順の青年で、この程度のことでは誰でも知っているが、これを一文にまとめることは中々、できにくいものです。よくこれだけのことをシテ観ている記憶をまとめたと敬服します。

鳥人農人

まえがき

去る五月廿六日、クロリヤイ区若野耕一氏の同居人石田盛男(30)君という青年が大変面白い経歴をもつてい方ので、話をささうではなにかという相談になり、力(ザクリ)スタイルの主人公坂東敬次氏が迎へにいつて週報社迄、御恩労を願つた。同君は和歌山県日高郡美浜町和田の出身(和歌山市から東南汽車で一時間位の所)といつて一月ばかり前、若野氏に奇奇せてもらひ着いたばかりの「新移民」さんである。

一見したところ、若野君にシテ、かがつた。テルをを着込んを平気な一青年に過ぎないが、この人が太平洋戦争大けなななりしころ多くの少年航空兵と共に雷撃機に身をまかせ、サイパンにパラオにシンガポールの戦いをシテ、戦死した鳥人であつた。その話をきくと、追証が想像し得るであらうか。そして何百人かの同僚鳥人が、大なるまとなつて戦死した中、奇蹟的に生かされて自爆した中、奇蹟的に

養蚕蚕歩合飼育者

二家族 至急募集

一回に五百クマ飼育できる蚕室及桑園があります。働き手の多い家族を希望します。詳細は面談・左記へ御いで下さい。サウーテロ一組

北 谷

コレナ
鎖式 井戸水揚ポンプ
ガソリンモートル附
聖市へ移転につき格安にゆづります
(品物は完全なものです)
ご希望の方は左記へあいで下さい
フロブレッツン區十五号地
吉 田 寛

生残つた数人の一人だとさくに及んで、戦後の運命に驚かぬで居られぬ。人もあろうが、一死報国すじがね入りの教育を受け、ほんとくに血みどろになつて、仇いた人達に、国家は何のつぐないで謝礼をしてやつたか、やつと終戦、命がらひはしたものの、そこにはまっていたものは「追放」という汚名と「食へない」さびしい現実であつたことを思へば、生残りの鳥人が農人として新しく生きる道を、フラジールに求めた心境に温かい眼をそ、いでやる可きではないか。

新聞や雑誌で彼らの勇敢な行動はつたえられたが、そのモテルがつい目の前に居ると、不思議や実感が伴つて、さまざまな疑問が出るものである。

もう十何年前のことだ、あまりいい思い出はありませんと多く語らうとしない。石田君ではあつたが、さかればは従軍兵隊で、そのことばかりがまた和歌山に在り、そのもので、戦争話を売りにした、かの軍人上りのくさみは更になかつた。身長一米六〇センチ、体重五五キロ見当、あささうで細面、さつと唇をどじた野郎、さすがありし日の少年航空兵のつらだましいとでもいうようなもの、眉間に

Enquanto assim reflectia, sem encontrar nada, já se sabe, abriu-se a porta e entrou um rapazote que trazia uma rabeca debaixo do braço, e na mão que tinha livre, um pedaço grosso de lenha, igual aos que eu vira na chaminé, fez-me ver onde Garofoli arranjava a sua provisão, e o prego que ella lhe custava.

— Me esse teu pedaço de lenha, disse Fattia, indo ao encontro do recém-chegado. Mas este, em lugar de dar o pedaço de lenha ao seu camarada pô-lo para traz das costas.

— Ai! não senhor, disse ele.

— Dá-me; fica a sopa melhor.

— Não julgues que o trouxe para a sopa. Tento só trinta e seis soldos, e conto com ele para que Garofoli me não faça pagar zero de mais os quatro soldos que me faltam.

— Não ha pedaço de lenha que te valha; has de pagá-los, deixa estar; cada um por sua vez.

Fattia disse isto com maldade, como se estivesse satisfeito com o castigo que esperava o seu companheiro. Admirou-me este relampago de crueldade num rosto tão doce; só mais tarde é que soube que vivendo com os meus se pode vir também a ser mau.

Era a hora da chegada de todos os discipulos de Garofoli; em seguida ao pequeno do pedaço de lenha; veio o outro, e depois desse mais outros ainda. Logo que entravam, ia cada um pendurar o seu instrumento num prego por cima da cama; este uma rabeca, aquelle uma harpa, aquelle outro uma flauta ou uma "flra"; os que não eram musicos, mas unicamente mostradores de bichos metiam numa gaiola as suas ratinhas ou os seus porquinhos da India.

Um passo mais pesado resouu pela escada, senti que era Garofoli; vi entra um homem baixo de aspecto febril, com um modo de andar hesitante; não vinha vestido á italiana, trazia um paletó cinzento.

A primeira parte para onde olhou foi para mim; um olhar que me fez frio no coração. Fattia respondeu-lhe immediatamente e com toda a delicadeza, dando-lhe as explicações de que Vitalis o encarregara.

— Ah! Vitalis esta em Paris, disse ele, o que me quer elle?

— Não sei, respondeu Fattia.

— Não é contigo que estou falando, é com este rapaz.

— O "padrone" esta a chegar, disse eu, sem me atrever a responder com franqueza, explicar-lhe-a ele proprio e que deseja.

— Aqui está um pequeno que conhece o valor das palavras; não és italiano?

— Não, sou francês.

Dois rapazes tinham-se aproximado de Garofoli assim que este entrou e ambos se conversavam ao pé dele esperando que acabasse de falar. Que queriam elles? Em breve tive a resposta a esta pergunta, que eu fiz a a mim mesmo com curiosidade.

Um tirou-lhe o chapu e foi pô-lo com toda a delicadeza em cima de uma cama, o outro trouxe-lhe imediatamente uma cadeira; pela seriedade e respeito com que executavam estes atos tão simples da vida dir-se-ia dois meninos de coro servindo solícita e religiosamente o officiante; por isto a que ponto Garofoli era temido, porque não era de certo a aridade que assim o fazia desvelarem-se em cuidados.

Depois de Garofoli estar sentado, outro pequeno trouxe-lhe um cachimbo cheio de tabaco, e ao mesmo tempo trouxe-lhe um fosforo aceso.

— Cheira a enxofre, animal! gritou elle depois de o ter chegado ao cachimbo, e deitou-o para a chaminé.

O culpado apressou-se a remediar a sua falta, acendendo n'vo fosforo, que deixou arder bastante tempo antes de o oferecer ao amo.

— Tu não, estúpido, disse elle empurrando-o bruscamente, — depois,

voltando-se para n'tro rapaz com um sorriso que era de certo um insigne favor.

— Picardo, um fosforo meu pequerrucho.

— E o pequerrucho deu-se pressa em obedecer. Instalado, e ao seu

— Agora, disse Garofoli, quando se achou bem instalado, e ao seu cachimbo começou a arder; vamos ás nossas contas, meus enjinhos; o livro, Fattia!

— Já tinha pedido o seu livro de contas, já Fattia lhe punha defronte um registro imundo. Garofoli fez um sinal ao pequeno que lhe apresentara o fosforo enxofrado; este aproximou-se.

— Neves-me um soldo de ontem, prometeste dar-mo hoje, quanto me trazas?

O pequeno hesitou muito tempo antes de responder; estava escarlate (continua).

バスロス在任
愛媛縣人にお知らせ

ラジオ及新聞紙上ですでに御承知の事と存じますが、此の度びわが愛媛県知事(元松山城主久松氏)が来伯とされる事に決定し、短い滞伯期間中當バスロスに来植して頂く様になりました。現在の処、来る六月二十二日トッパン飛行場へ着かれ、同日バスロスに一泊翌廿三日フォルステン市に向われる事になつて居りますが、若し予定変更ある場合はラジオ・スワッチ並にパンアメリカの沖永商店時間にて通報する筈です。果へ各位に於かれましても、六月二十日夜の知事歓迎会には何卒御出席御総合せ御出席を御願ひ申上げます。尚サンパウロ在伯愛媛県人会より此の期會に名簿作成の爲の次の調査事項の依頼がありましたので、歓迎会出席の如何を伺わす御知らせ下さい。

調査事項

- 一 姓名 一 家族人員数 一 本籍地
- 一 現在所 一 渡伯年月日 一 職業

六月二十二日夜知事歓迎餐會
会場池田ホテルに於て会費三百ルセル
尚準備の都合がありますので、歓迎会申込と名簿調査は来る六月十五日迄に次の連絡員迄御願ひ申上げます。

六月五日

世話人 真木 諭 吉

水口 主 計

福田 良 三 郎

渡辺 パウロ

連絡人(南伯中興産組内)

長 橋 智

愛媛縣人
各位

プアプア印ミシン

昨年未閉店の折五十七台ありましたドイツ製プアプア印ミシンが残り 六台 となりました。皆様ご存じの通り存層関係の爲のプア印ミシンは現在輸入杜絶されております。プアプア印ミシンの名前はすばらしく實際卓越したミシンです。最後の機会を逃さず御申込下さい。(ベッサの御心配ありません)

たった 六台 限り

バスロス市
ポ・ウアルガス街 二六八号

前田 育 人



C.P.195

鳥入 農人 つかさ (前頁より)

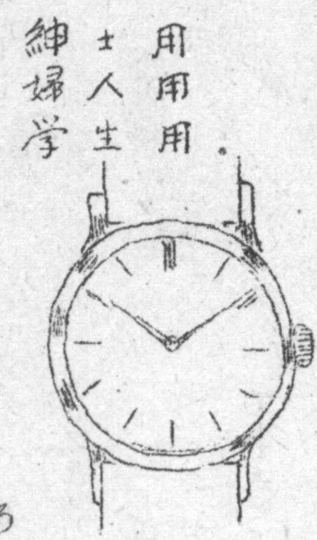
組 鷲 荒鷲となる

閉 航空隊に居られたそうです。ね
石田君 は海軍航空隊でした。そのいふ人岩國に基地があつて、少年兵十五才以上十七才迄まで教育して居りました。私は昭和十六年十二月四日入隊しました。少年兵の教練は普通三年制ですが、もうその時分は三年と一年に短縮しました。昼間は実習、夜間学科でした。私はその時十五才でしたが、まだ三年制で教育されていきました。
石田君 昭和十九年二月十七日出撃の命令が出た。同期生十一人木更津を十九日朝出発しました。編隊五十機、これは雷撃機といふので、乗員八人ですが、之に五人乗組みました。つまり八人分の仕事を五人で分担するのです。機雷の重量は一トン強で一枚一発式で、外に敵に攻撃された時、敵機を六台もつて居ります。岩國を出発したのは廿日朝七時半、サイパン島に向かひました。午後三時頃か。なほうです。任務は敵艦撃沈波で、船影を捉えろと之に急襲するのです。普通バクケキ機ですと四十五度位の急降下ですが、雷撃ですともっと角度は緩いのです。大々

Relojoaria Takata

高田時計店

- Pulso 腕時計
- Bolso 懐中時計
- 新型めざまし
- ブリンコ、コリンチンニョ
- メダリンニア
- 眼鏡 新型 いろいろ
- アリアンサ



用用用
紳士人生
紳婦学
保険付

又々保険付きの
よい時計がとでも安く
さし上げられます
色々入荷しましたから
ごらん下さい

鳥人襲入ッッッ
い船艦の前方正面から突込んで波間に
爆雷を發射して、直ちに上昇するのです
が中々口で説明するようには簡単に上昇
できませぬ、左か右へ旋回するのでも
がその時が一番危険で艦砲をやられる
ことが多いのです。
問、そう言う時のきもちは何？
石田君、生死という感トを超越していま
した、操縦は実習でたまたま上げられて
いるので、雷撃の發射にしましても、皆カン
急降下から旋回の行動にしましても、皆カン
です、平素の訓練通りにやっています、
戦果
に、級分緊張する位のもので、戦果
について、自機は、あやふやの場合もあり
ます、戦力測定というところもありまし
た。
問、戦力について彼我の巨離は？
石田君、飛機の性能は対等だと思ひます
技術なども、こちらがすぐれていると
か訓練がまさって、勇敢といふ点で特に日
本が彼にまさっていると思ひます、彼は無
量の生産をして、従って乗組員を
大いに人命を重んじて、及し、日本
は大量に乗組員を失っています。
問、落下傘は？
(この稿ッッ)

Debulhador de Milho
"PENHA"



御申込は左記
ルア・カンポス サーレス (カネイア前)
野 沢 一 衛
又は
パール水口 務

いよ
みりよ 脱粒の好期
すばらしく能率の上る
新式マキナ
御用命に応じます
日曜・祭日・夜間・遠近・出張
いたします

木皿老大はりマコリ
七月の入植祭に、とび入りのど自慢に木皿庄次郎
氏は自作の松前追分や安未節をやる決心
はアッ、もろとも毎日登陸練習だそうである
松前追分
前唄
音に名高い神戸の港 たつとときに
あらびや丸へと身をのせて
ながの船路も 高坂まくら
黄金花咲く この國(アラジル)へ
本唄
過ぎまじりし 年月 みたしせも進し
今はこの所(バストス)で日を送る
後唄
未練のようだが祖國がこいしネ
富士のたかねが目に浮ぶ……
(松前追分今一曲、安未節は次号にのせます)
鋸の目立て、とぎもの一坊
御用がありましたらおもち下さい
元の新組合製糸場、目下澁谷養蠶場
のすぐそば
木皿庄次郎追

Meu Destino e' Amar

女物の地也圖



シネ
バンテイランテス

踏みにじった男へ復讐する豹のような女
憎悪にもえて死を以て抗議する強い女
法律でも制裁できない悪の権化と戦う斜陽令嬢！

コノ映画ハソウ云フ物語リヲ
久慈あさみ、折原啓子、宗方規子、若原雅夫、伊沢一郎、徳大寺伸、ナドの豪華キャスト、カカーハイニ演ジテイマス

原作ハ田村泰次郎 監督田中重雄 撮影三村 明
久しぶりに胸のすく映画らしい映画
四つに組んだ本格的力作でございます

来る六月十五、十六日 両夜とも八時より
(五歳以下は入場できません)

Com Territorial do Brasil Ltda.

聖市郊外 の大宝庫

コンパニア・テリトリアルドブラジール
會社賣出しの土地は聖市から百キロ
の近距離、中央を軍用道路が通り
子へ向けて貫通します

4.000 Alq

地価は上昇する人気の焦点

今の内に御視察の上、御入手下さい
○原始林ですから、一エーカーから
トトラ六十米クビコ(九ロコト)
木炭四千俵(一五ニシト)がランゲード
○土地代は只同様です
日本人部ツパン右田辰彦
ハストス及ソコ線代理人

戸田源 作

Nossa Relojoaria
Av. TAMOIOS 785
Tupã



時計店
ノッサ

御礼 広告

戸田辰彦様 故母堂やい様カ葬儀に當り
香奠送しの儀、金老付、當寺へ御寄附
下さいました

寺岡トモ様 故岡佐太郎様三十三回
忌御法事供養、當寺へ御寄附金一封也
戸田辰彦様 故母堂やい様法事、御寄附
金一封御寄附

右を通り御寄附各位に辱く、御社申上ります
六月五日
イクレイジヤ、フジスヌネ、ハストス
梵 真 寺